



1_夕暮れの霞ヶ浦湖畔。時間帯や見る位置によってさまざまな表情を見せてくれる霞ヶ浦も「つくば霞ヶ浦りんりんロード」の魅力の1つです 2_りんりんスクエアのサイクルショップ。色とりどりの自転車が所狭しと並び様子は目にも楽しい 3~5_市内で行われた自転車関連イベントの様子。市内だけでなく、市外・県外からも多くの参加者が訪れます 6_子ども向けの自転車教室イベント。毎回人気を博しており、申し込みを開始するとすぐに定員に達するとのこと

特集

走り出した 自転車のまち



通学、通勤、スポーツ、レジャー、エコロジー。あなたは『自転車』というワードからどんなイメージを連想するでしょうか。

自転車の関わり方は人それぞれで、時代やその人の年齢などによってもさまざまに変化してきました。

そして今、街と自転車、土浦と自転車の関わり方も変わりつつあります。今回は、「自転車のまち」として走り出した土浦に注目し、全国からサイクリストが訪れる『つくば霞ヶ浦りんりんロード』や、初心者でも楽しめる市内でのサイクリングなどについてご紹介します。



充実する自転車環境

2018年3月——、土浦駅の駅ビルが、日本最大級の自転車リゾート施設「レイアウトレ」へと変化を遂げました。

サイクリング拠点施設「りんりんスクエア土浦」を核に、店内に自転車を持ち込むことのできるカフェなど、サイクリストをターゲットとした施設が充実しています。

さらに今年3月には星野リゾートの手がけるサイクリスト向け宿泊施設も完成予定で、自転車観光客の増加などが期待されています。

2019年3月に完成した広域交流拠点「りんりんポート土浦」もまた、霞ヶ浦一周などを目的に訪れるサイクリストを中心に人気を集めています。無料駐車場があり、電車で訪れる利用者が多い「レイアウトレ」とは対照的に、車での利用者が多いのが特徴です。

休日はもちろん、天気が良ければ平日でも数十組ものサイクリストが、ここを基点にサイクリングやポタリングを楽しんでいます。

これら2つの拠点施設を筆頭に、ハード面での整備が進む市内の自転車環境ですが、ソフト面でも様々な取り組みが行われています。「ロードバイクやクロスバイクに乗ってみたいけど、なかなか手

が出ない」と言う初心者の方にも人気のレンタルサイクルです。りんりんポート土浦やまちかど蔵「大徳」、りんりんスクエア土浦などで借りることができ、EバイクやタンDEMバイクも人気です。また、大小様々な自転車関連のイベントも開催されており、県内外から多くの人が訪れています。

世界に誇る自転車道へ

このようなハード面、ソフト面の充実を牽引する最大の要素が「つくば霞ヶ浦りんりんロード」です。

昨年11月、国が世界に誇る自転車道を認定するナショナルサイクルートの第1弾として、『ピワイチ(滋賀県)』、『しまなみ海道サイクリングロード(広島県・愛媛県)』と共に選ばれました。

土浦市は、この全長約180kmにおよぶコースのほぼ中央に位置しており、JR常磐線や常磐自動車道により、県外からもアクセスのよい、コースの玄関口として機能しています。

日本が世界に誇る自転車道と共に走り出した自転車のまち、土浦。多くのサイクリストを惹きつけるナショナルサイクルート、「つくば霞ヶ浦りんりんロード」と、初心者でも楽しめるレンタルサイクルでの市内散走について取材しました。